

所 在 地 宮城県大崎市古川小林字小林南・新横枕

立地環境 大崎平野北部、江合川北岸の標高 28mの自然堤防上

発見遺構 材木塀、掘立柱塀、掘立柱建物、竪穴建物、溝、土坑など

年 代 7世紀後半～9世紀頃

遺跡の概要

南小林遺跡は、JR古川駅から北西へ約5kmの江合川北岸の北西から南東に延びる自然堤防上に所在する（第1図）。

遺跡は県営ほ場整備に伴って発掘調査が行われ、古代を中心に多くの遺構・遺物が確認されている。遺構群は大きく分けて第Ⅰ期（集落）、第Ⅱ期（倉庫院）、第Ⅲ期（集落ほか）の変遷が認められる。

遺跡の変遷

第Ⅰ期－7世紀後半頃：集落－

竪穴建物を主体とし、竪穴建物83棟、掘立柱建物5棟、材木塀1列、掘立柱塀3列が確認されている（第2図）。建物や密集する竪穴建物は第Ⅱ・Ⅲ期と異なり、真北より大きく傾く。また竪穴建物群は材木塀により東西に区画されている。竪穴建物には関東地方に顕著な短い煙道のカマドが認められ、関東系土師器が出土することから関東からの移民と関わりのある集落と考えられる。

出土遺物は、非クロロ整形土師器を主体とする。土師器には在地・東北北部系が認められるが、その多くは関東系土師器である。須恵器は外面に段をもち、口縁部が外反気味に立ち上がるものやカエリのある蓋がある。これらの遺物から第Ⅰ期の年代は7世紀後半頃と考えられる。

集落は、突如出現し、関東からの移民や後続する倉庫院との関係から国の政策下で成立した集落と考えられる。

第Ⅱ期－8世紀初頭頃：官衙域（倉庫院）－

総柱の掘立柱建物が6棟（推定+2棟）とその外郭となる材木塀1列、大溝1条、内部を区画する材木塀が確認されている（第3図）。官衙の規模は東西225m以上・南北約150mで、内部は3つのブロックに区画される。

総柱建物群は、床面積が60m²を超える規模や計画的な配置から官衙の倉庫院と考えられる。一部の柱抜取穴からは炭化したイネが出土しており、主にイネを納めた穀倉であったと考えられる。また、建物群の柱抜取又は切取穴の堆積土には焼土や炭化物が含まれ、さらには瓦にも焼け痕があることから、この建物群は同時期に焼失し、廃絶したと考えられる。

出土遺物は、瓦や非クロロ整形土師器、須恵器がある。瓦のうち、丸瓦は粘土板巻作りで、凸面の叩き目をケズリやナデで消している。平瓦は、粘土板桶巻で凸面に格子叩き目を残す。これらの特徴は、名生館官衙遺跡第Ⅲ期政庁などの多賀城成立以前の官衙や寺院に認められ、Ⅱ期の年代は8世紀初頭頃と考えられる。



第1図 南小林遺跡の位置

遺跡の全容が明らかではないが、隣接した地区に実務官衙院が伴う郡家となる可能性、同時期の丹取郡家である名生館官衙遺跡第Ⅲ期政庁に伴う倉庫院が未だ見つかっていないことから、広域となる丹取郡家の正倉別院の可能性がある。

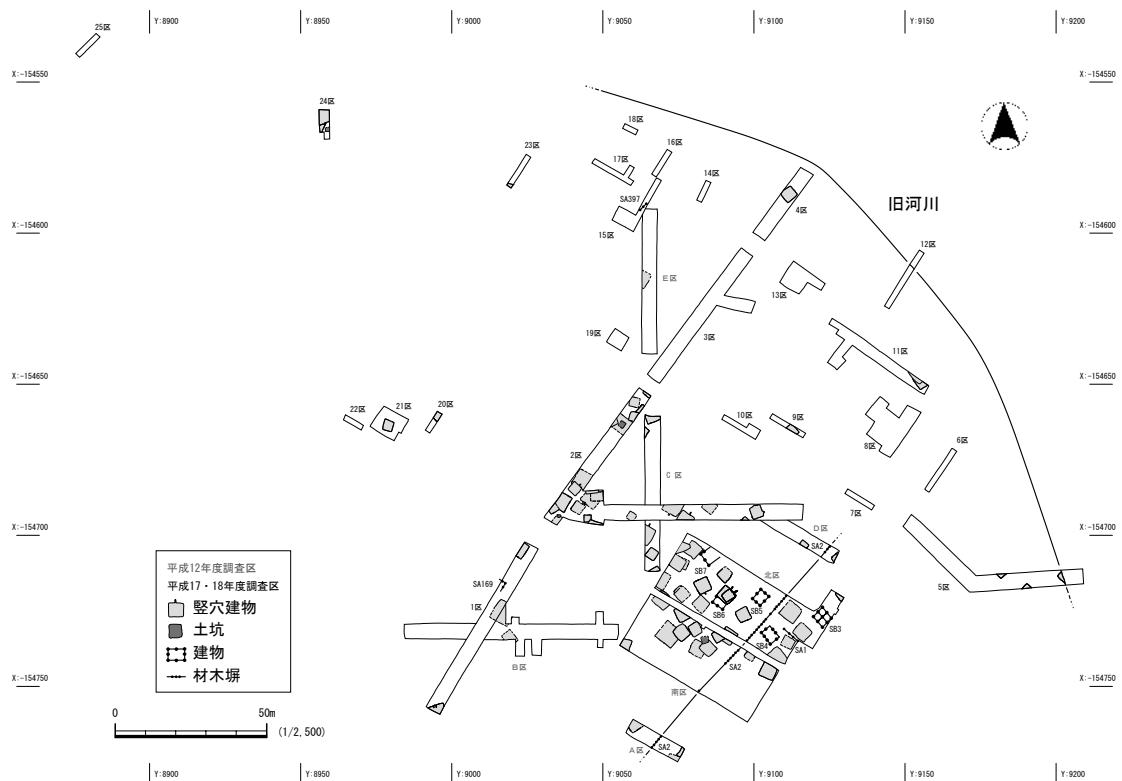
第Ⅲ期－8世紀前葉～9世紀頃：集落・耕作域－

堅穴建物を主体とし、堅穴建物40棟、掘立柱建物5棟、柱列1列、井戸1基、小溝状遺構群を確認している（第4図）。出土遺物は、非ロクロ整形土師器、ロクロ整形土師器、須恵器、灰釉陶器がある。須恵器は、底部を切離後にヘラケズリ調整される壊や底部回転ヘラ切未調整の壊などがある。ほか円面硯の特徴などから第Ⅲ期の年代は8世紀前葉から9世紀頃と考えられる。

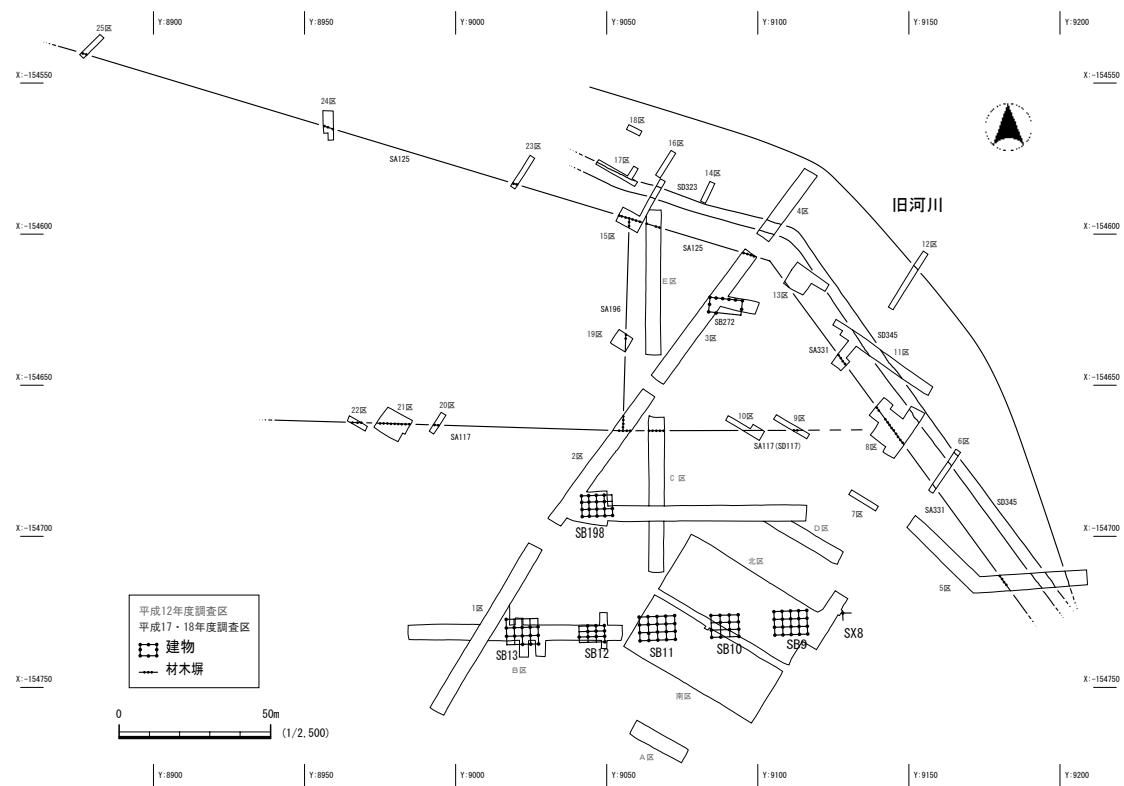
この時期の遺構群は、出土遺物に灰釉陶器や円面硯があることから、近在する官衙遺跡である杉の下遺跡や宮沢遺跡に關係する集落と考えられる。

関連文献

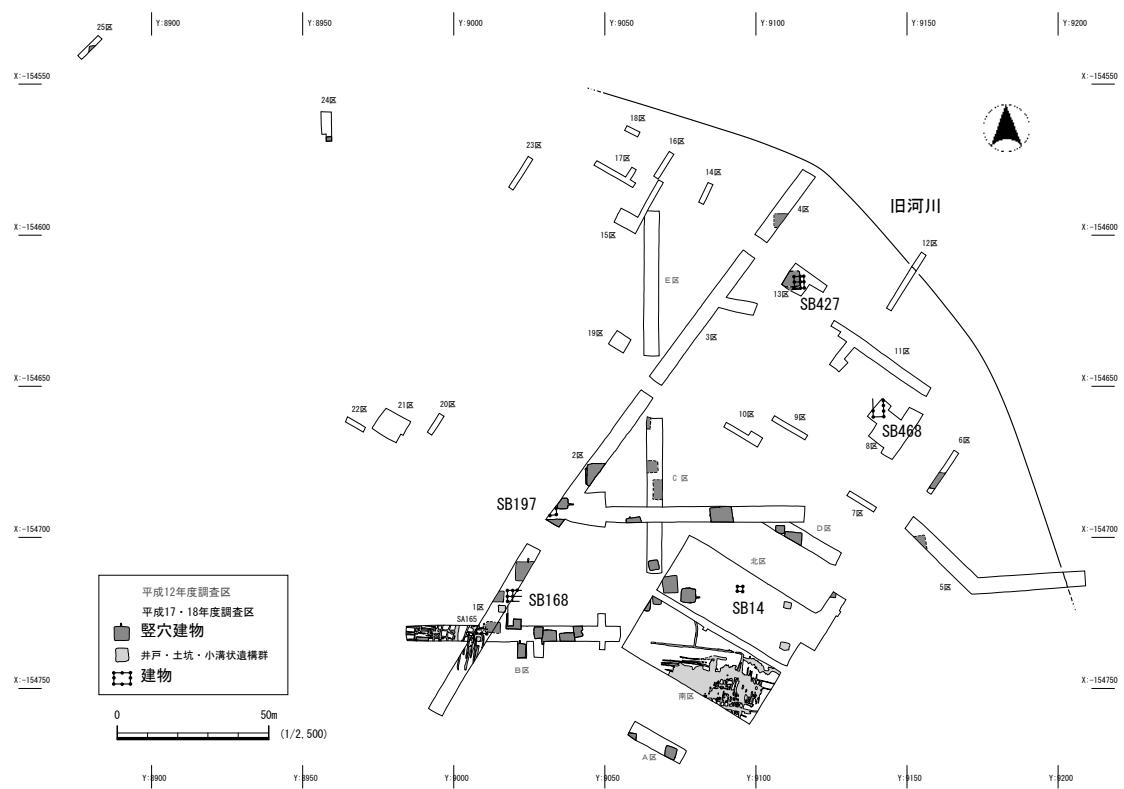
- 1 大崎市教育委員会 2019『南小林遺跡Ⅱ』宮城県大崎市文化財調査報告書第36集
- 2 大谷 基 2019「7世紀後半から8世紀前半頃にかけての大崎市域の城柵・官衙及び関連遺跡の諸様相」『第45回古代城柵官衙遺跡検討会』資料 古代城柵官衙遺跡検討会
- 3 佐藤恒介 2019「南小林遺跡」『第45回古代城柵官衙遺跡検討会』資料 古代城柵官衙遺跡検討会
- 4 古川市教育委員会 2001『名生館官衙遺跡XXI・南小林遺跡』宮城県古川市文化財調査報告書第28集
- 5 古川市史編さん委員会 2006『古川市史』第6巻資料1 考古 宮城県古川市



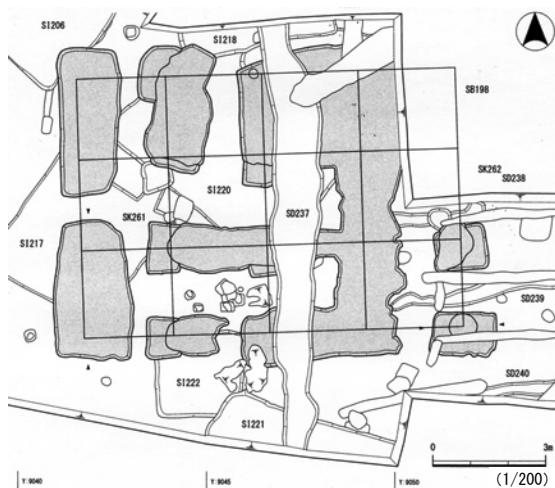
第2図 南小林遺跡第Ⅰ期模式図（文献1）



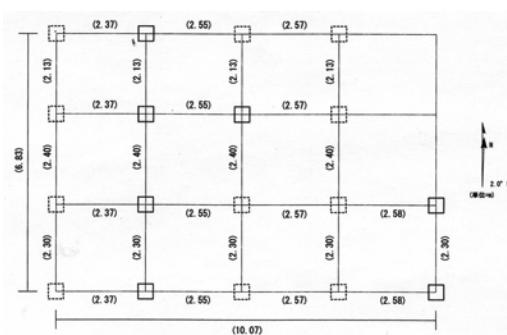
第3図 南小林遺跡第Ⅱ期模式図（文献1）



第4図 南小林遺跡第Ⅲ期模式図（文献1）



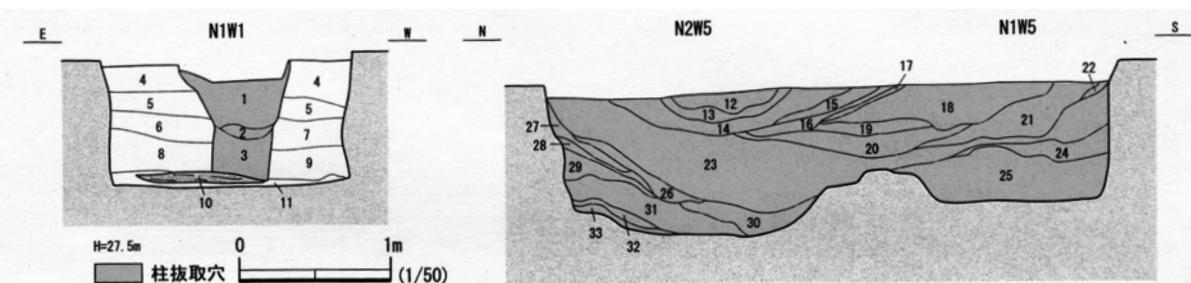
第5図 SB198 建物平面 (文献1)



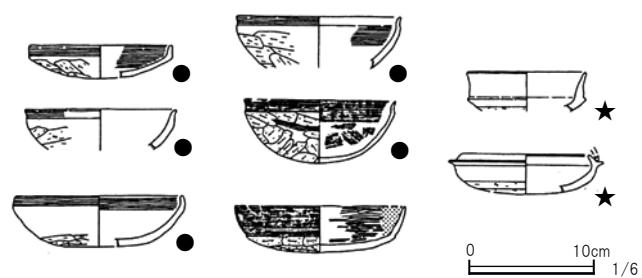
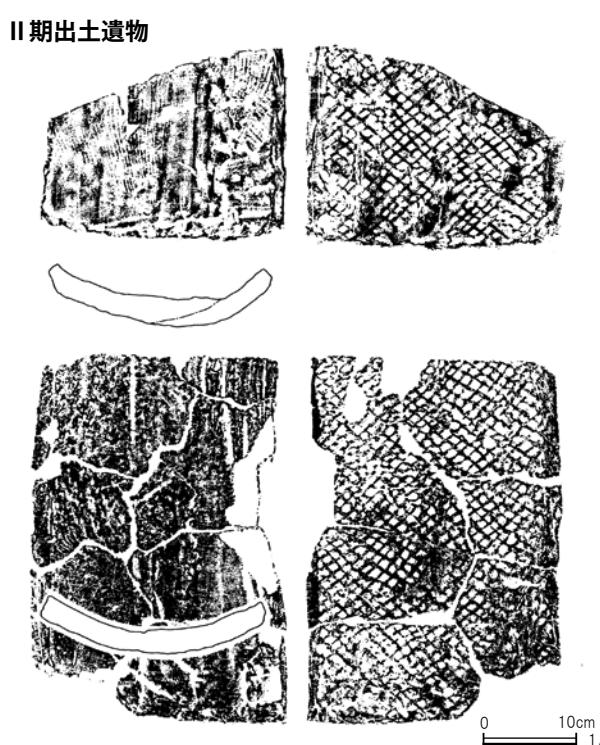
第6図 SB198建物模式図(文献1)

東西 4 間 (10.07 m)

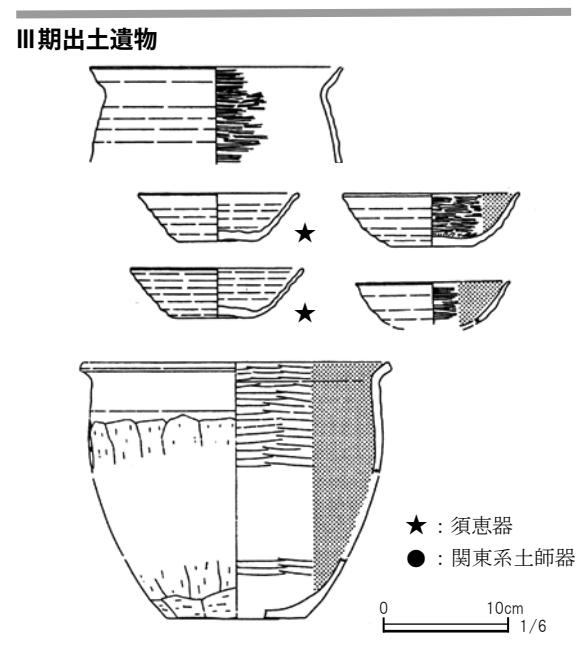
南北3間 (6.83m)



第7図 SB198 建物柱穴断面 (文献1)



I 期出土遺物



第8図 南小林遺跡・出土遺物（文献4から作成）